



N A

R A

奈良の手仕事

いにしへの技を受け継ぎ、未来へつなぐ



読売新聞大阪本社 関口和哉



読売新聞アーカイブ選書

奈良の手仕事

いにしへの技を受け継ぎ、未来へつなぐ

読売新聞社刊

この電子書籍は、読売新聞奈良県版に連載された「ならの手仕事」を再録したものです。掲載日は各回に記載しています。文中の肩書、年齢、商品の価格などの情報は、掲載時のものです。

■赤膚焼——小川二樂（大和郡山市） 素朴さ自然体で生み出す

- 奈良墨——古梅園（奈良市椿井町） 手足で練り完成に5年
- 高山茶筌——竹茗堂左文（生駒市高山町） 茶の味わい増す薄削り
- 木製灯籠——小南吉彦さん（奈良市紀寺町） ぬくもりともす六角形
- 奈良晒——岡井麻布商店（奈良市中之庄町） 大和機で織る最上の麻
- 美栖紙——上窪良二さん（吉野町） 清流と空気紙漉き育む
- 奈良筆——あかしや（奈良市南新町） 書の個性引き出す獣毛
- 奈良団扇——池田含香堂（奈良市角振町） 優しい風日常にそよぐ
- 奈良一刀彫——太田佳奈子さん（奈良市川上町） 造形と彩色 表情豊かに
- 烏梅——梅古庵（奈良市月ヶ瀬尾山） 黒が生む紅染め鮮やか
- くろたき水組木工品——山口勝さん（黒滝村中戸） 精密なはめこみ美しく
- 奈良漆器——小西寧子さん（奈良市西包永町） 螺鈿 正倉院宝物が手本
- 大和出雲人形——水野佳珠さん（桜井市出雲） 素朴さと表情に味わい
- 笠間藍染——井上紺屋（宇陀市） 発酵が生む独特色合い
- 三輪そうめん——三輪そうめん池側（桜井市三輪） 発祥の地歯ごたえよし
- 雅楽器製造——工房 響（天理市二階堂上ノ庄町） 音を作る楽しさ広まれ
- 日本酒——今西酒造（桜井市） 三輪の伝統 木桶で醸す
- 神酒口——米田神具店（下市町下市） 複雑で美しい形を追究
- 奈良表具——森本表具店（桜井市） 技術と根気 一点物支え
- 純米酢——ミヅホ（橿原市中町） 米ぬか由来独特の風味
- 吉野杉桶・樽——松谷商店（下市町） 木の香り食べ物とマッチ
- 三宝——吉谷木工所（下市町） 神具の技術生かし新具
- 古楽面——中坊竜堂さん（奈良市） 伝統の技樹脂で再現
- 奈良べっ甲——池田工房（桜井市） 控えめ 一点物の美しさ
- 瓦——山本瓦工業（生駒市） 「葺の波」 技術絶やさない
- 宇陀紙——福西和紙本舗（吉野町） 手漉き1000年以上生きる

〈取材ノート〉

手仕事紹介「前向き」貫く——読売新聞大阪本社橿原支局長 関口和哉

■赤膚焼——小川二楽（大和郡山市）

素朴さ 自然体で生み出す

利便性や経済性が優先されるなか、暮らしに根付いた昔ながらの手仕事は、各地で消滅の危機にさらされている。奈良の地で、先人から受け継がれてきた伝統の技を紹介する。



回転するろくろの上に置かれた粘土の塊が、たちまち茶わんの形になっていく。「一つ一つ意識してバラバラに作っている。同じ物を作るより大変ですね」。大和郡山市朝日町の赤膚焼窯元「小川二楽」の小川一雅さん（67）は、そう言って笑う。

結婚式の引き出物として湯のみ約50個の注文を受けたことがある。手の大きさは一人一人違う。それぞれの人に合うものを選ぶのが楽しい。「『あの人にはこれが合う』とあれこれ悩まされていた。ご夫婦の心も伝わったでしょう」と振り返る。



▶⑤ 一つ一つ大きさまや形が違う湯のみ／⑥ 「窯元を訪れて、自分に合った焼き物を選んでほしい」と語る小川さん

赤膚焼の窯元は奈良市と大和郡山市に6軒あり、自身は明治時代に創業した窯の4代目だ。研究会を2001年に設け、事務局長として最新の知見で歴史や技術を追究している。しかし、赤膚焼の名前の由来や歴史は不明な部分が多いという。

*この続きは製品版でお楽しみください。

読売新聞アーカイブ選書

奈良の手仕事

いにしへの技を受け継ぎ、未来へつなぐ

発行日 2023年10月25日

著者 読売新聞大阪本社 関口和哉

発行者 村岡彰敏

発行所 読売新聞東京本社

〒1000-8055 東京都千代田区大手町1-7-1

URL : <https://www.yomiuri.co.jp/>

© 2023 The Yomiuri Shimbun

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、改竄、インターネット上に掲載すること、および有償、無償にかかわらず、本データを第三者に譲渡することを禁じます。なお個人利用の目的であっても、コピーガードを解除しての複製は、法律で禁じられています。